

# 今年度実施した取り組み

地方公共団体等との連携

令和4年3月22日  
東京管区气象台

## 関係機関や自治体向けの取組

平常時

- 区市町村職員を対象とした講習会
- 地域防災計画修正、避難勧告等の判断・伝達マニュアル等の策定に係る支援
- 学校防災等防災教育に対する支援
- テレビ・ラジオ等取材対応
- 一般住民向け出前講座

- あなたの町の予報官テレビ（東京管区気象台）



都内の各市町村職員を対象として東京都防災気象講習会

顕著現象時

- 都庁、県庁で開催される台風説明会での気象解説
- ホットライン等による即時的な気象解説・助言
- テレビ等への出演、会見、取材対応

発災後

- 都道府県、区市町村の災害対策本部等へ気象庁防災対応支援チーム（JETT）を派遣
- 災害時気象支援資料の提供
- 気象速報の作成
- 区市町村等との振り返り



防災教育ポータルサイト

【～平時の取組～】  
地方自治体担当者を対象とした気象防災ワークショップの実施

- ◆ 地元気象台から発表される防災気象情報に基づく地方公共団体の防災対応を疑似体験
- ◆ 各種防災気象情報の理解や有効活用、体制の強化や避難情報に関する検討を行うことにより防災対応力の向上を目指す
- ◆ コロナ禍を踏まえ、オンライン会議システムも活用し実施している

気象防災ワークショッププログラムの概要

避難情報・防災気象情報

警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	行動を促す情報
5	災害発生又は切迫	命の危険 速ちに安全確保！	緊急安全確保
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	
2	災害が切迫化	身の危険を感じたら 速に避難行動を開始	大雨・洪水・高潮注意報 （注意報）
1	今後災害が深刻化するおそれあり	災害への備えを高める	早期避難要請 （要請）



防災気象情報の  
理解・活用（読み解き）



内閣府「避難情報に関する  
ガイドライン」に基づく解説

グループワークで  
災害対応を疑似体験

ガイドラインを気象状況  
などに当てはめて具体的  
に考えることによる  
実践力の育成

多様な参加者の中での  
議論による相互連携の  
醸成と新たな気づき



画像：梶岡博氏提供



オンラインによる実施例

減災に向けた取組として、東京都の区市町村向けに平日の11時15分からWeb会議サービスを用いて、毎日気象解説を実施しています。

- ・「あなたの町の予報官テレビ」(以下、「あな町TV」)の名称でZoomミーティングにより実施。
- ・平日11時15分から5分程度区市町村向けに気象解説を実施。
- ・天気図や気象衛星を用いた実況、警報等の見込み、週間天気予報等を解説。
- ・発言やチャットにより質問も受け付け、東京都担当予報官が回答。
- ・放送終了後、録画をメールで共有。その際、ポイントをまとめた資料をPDFにして添付。
- ・台風接近時には、台風説明会としてより詳しい資料を用いて説明を実施。



予報官による解説の様子



あな町TVの画面のキャプチャ

【～緊急時の取組～】

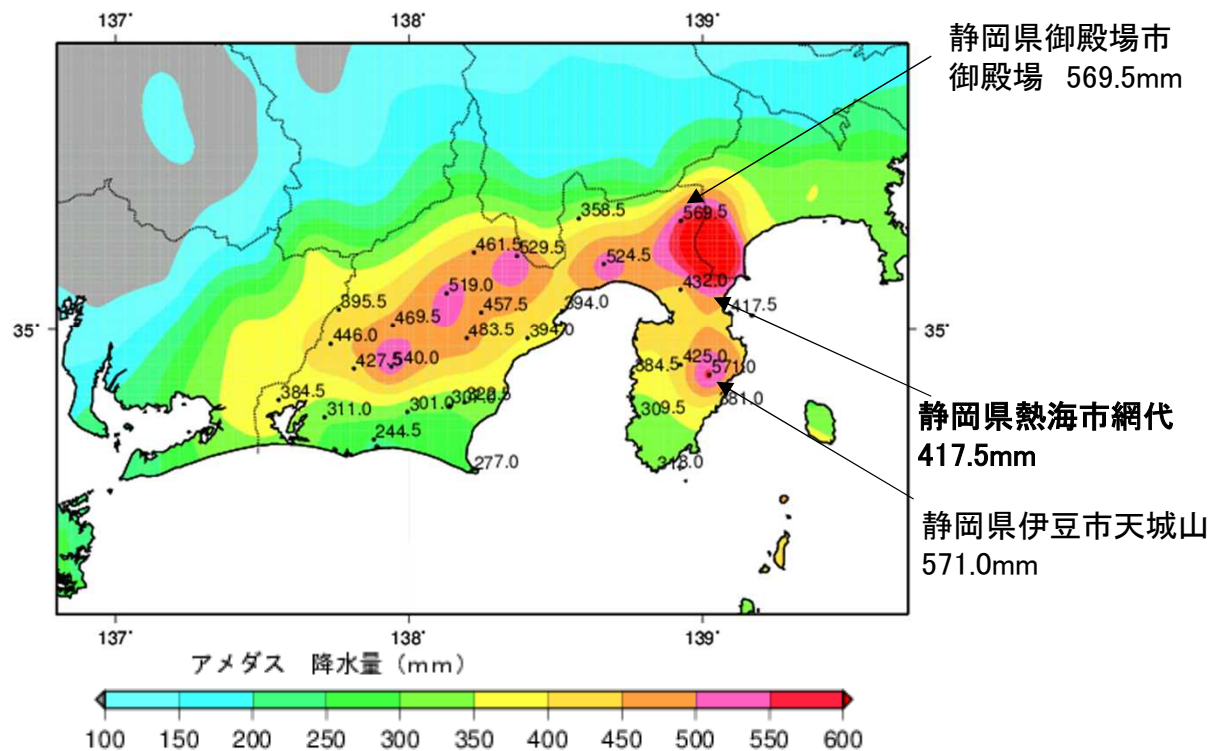
## 令和3年7月3日に静岡県熱海市で発生した土砂災害への対応

6月末から梅雨前線が北上し、西日本から東日本に停滞した。前線に向かって暖かく湿った空気が次々と流れ込み、大気の状態が非常に不安定となったため、東海地方から関東地方南部を中心に記録的な大雨となった。

数日間にわたって断続的に雨が降り続き、静岡県の複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど、記録的な大雨となった。

この大雨により静岡県熱海市で土石流が発生したほか、河川の増水や低地の浸水が発生した。

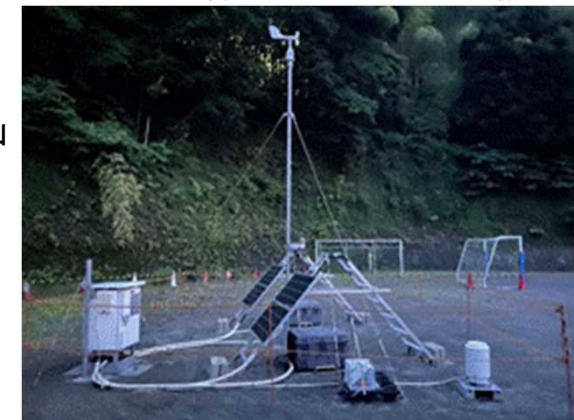
静岡地方気象台は、土砂災害による応急復旧活動を支援するため、7月3日19時にJETT（気象庁防災対応支援チーム）を派遣し、東京管区気象台からの応援と合わせ、8月31日まで気象解説を実施した。また7月7日に臨時観測所（熱海伊豆山）を設置し、雨や気温などによる二次災害を防ぐための観測データとして提供している。



期間降水量分布図（6月30日18時～7月5日00時）



熱海市災害対策本部での気象解説



熱海市に臨時観測所を設置（熱海伊豆山）